

LECTURE

講演会報告



- 第7回文学部講演会
「くまのプーさんとイギリス文化」
- 上智大学教授 小林章夫氏
- 1月11日 長久手キャンパス



小林先生は、イギリス18世紀の「専門」で、『コーヒー・ハウス』をはじめ、イギリス文学・文化に関して数々の「著書」を出版されています。

小林先生は、世界の人々から愛されている『くまのプーさん』は子供の本というだけではなく、優れたイギリス文化・文学のエッセンスが詰まっていることを説明してくださいました。言葉の流れるような美しさはもちろん、挿絵を楽しく味わいながら読むことで、この本の新しい魅力を見ることができました。

「で育つてきた学生にとつて、アラン・ミルンの描いた『くまのプーさん』は、全く新しい世界に写つたのではないのでしょうか。自然な会話を通して描かれた登場人物のイメージ、例えば陰気なロバのイーヨー、退役少佐のイメージをもつフクロウを、読者は自然な形で受け入れますが、そこには計算された効果が隠されていたのです。

「講演を聞いた学生は、文学作品『くまのプーさん』の魅力に取り付かれ、文学のもつすばらしさを再認識したことでしょつ。



- 人権擁護委員会主催
「アカデミック・ハラスメントの防止に向けて」
- 関西学院大学総合政策学部専任講師
吉野太郎氏
- 1月15日 長久手キャンパス



本学では、これまでもハラスメントを防止するための啓発活動が行われてきたが、アカデミック・ハラスメントを対象とした研修会が開催されるのは初めてのことであり、130人を超える教職員が参加しました。

吉野先生はNPOアカデミックハラスメントをなくすネットワークの理事・相談員としても活動をしておられ、講演ではDVDの上映によってアカデミック・ハラスメントの典型例が紹介されました。さらに、さまざまな相談やアンケート結果を通じて、アカデミック・ハラスメントにどの

ように対応するべきか、具体的な事例を挙げて説明していただき、参加者は熱心に耳を傾けました。

質疑応答の時間には、教員を中心に日頃学生と接する中で感じた疑問や授業アンケートの記述をふまえた質問が出され、吉野先生からは一つひとつ丁寧にコメントやアドバイスをいただきました。最後に述べられた「ハラスメントが起こりにくい組織作りを取り組むことが、多様な人へ開かれた大学につながる」というお言葉が強く印象に残る研修会でした。

文部科学省から現代的教
育ニーズ取組支援プログラム
に選定された全学英語教育
プログラムAS MAP関連
行事として、名古屋アメリカ
ンセンターと本学ジェンダー
女性学研究所の主催で開催
された講演会。

講師として、女性の再就
職についてのコンサルタント
であり、「バック・オン・キャ
リア・トラッカー」専門主婦か
ら仕事に戻りたいママたちの



イングリッシュ氏



コーエン氏

- AS MAP関連行事
「Second Chance for Women :
女性のキャリア再出発戦略」
- キャロル・フィッシュマン・コーエン氏
コニー・デイト・イングリッシュ氏
- 3月18日 星が丘キャンパス



ためのガイド』の著者である
キャロル・フィッシュマン・コー
エン氏と、バージニア大学ス
クール・オブ・ビジネスで卒
業生キャリアアドバイザー
クターを務めるコニー・デ
イト・イングリッシュ氏がそれ
ぞれの実体験を踏まえた再
就職戦略を語りました。

仕事と家庭の両立に悩む
日本の女性が、出産・子育て・
介護の時間を確保しながら、
自分のキャリアをデザインす
るにはどうすればよいか。

大野光子英文学科教授の司
会により、コーエン氏は再就
職のための具体的な七つのス
テップを、イングリッシュ氏は
雇用する側の視点から、アメ
リカのビジネス界が女性労
働力を呼び戻すためにどう
対応しているかを、日本語逐
次通訳つきでエネルギーシ
ュに語られ、個人と社会の柔軟
性の重要さなど示唆に富む
話を聴衆は熱心に傾聴し、質
疑応答が続きました。